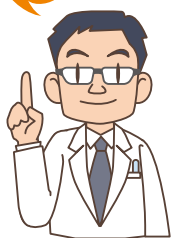


小児科医の上手なかかり方

POINT 1



診療時間内に受診しましょう

- いつも診察をしてくれる「かかりつけ医」に診てもらいましょう。
- かかりつけ医なら、お子さんのことを的確に判断でき、カルテの情報などから総合的に判断し、適切な治療が受けられます。

かかりつけ医のメリット

- 子どものかかった病気、接種済みの予防接種などを知っている。
- 体質を知っている。(アレルギー・くすりの好み・ひどくなりやすい症状など)
- 子どもが安心できる。
- 保護者の不安や希望を伝えやすい。

など

POINT 2



子どもの症状や様子のわかる人が連れて行きましょう

- 発熱の経過、食事の状況、機嫌、飲ませたくすりなどについて説明することが必要です。

POINT 3



病院に必ず持っていくもの、持っていくと便利なもの

必ず持っていくもの

- 母子健康手帳、保険証、子ども医療費受給者証、診察券、お財布、お薬手帳(服用している薬や品名のわかるもの)

持っていくと便利なもの

- 便の状態がおかしい時は、おむつごとビニール袋に入れるか、カメラや携帯電話等で写真に撮って持っていく。
- 体温表(グラフ)、紙おむつ、タオル、着替え、汚れ物を入れるビニール袋、ミルクやお茶、待ち時間のためのオモチャや絵本など

POINT 4



診察で伝えること、たずねられること

- いちばん気になる症状は何ですか？
- くすりや食べ物のアレルギーはありますか？
- その症状はいつからありますか？
- 体温(体温表)の変化はどうか？
- 家族や遊び友達に同じような症状はありませんか？